

市川市における不安障がい医療の現状調査及び 弊社ソフトウェア体験会の実施



実験概要

本実験は、不安症に対するVR曝露療法体験会を開催し、いつでもどこでも受けられる不安症に対する心理療法の確立と不安症理解への啓発を目的としています。

実験内容

2008年時点で不安障害の治療を受けている人の割合は14%であり、多くの人々が不安障害の治療を受けていないという事実があります。現在の日本においても不安障害医療の需要分析が不十分であるという課題があげられますが、2019年度現在の不安障害の受療率や、患者数、認知率に関する情報が存在しないため、今回の実証実験を通して市川市で不安障害に関する質問紙調査を行うことで、同分野の現状を明らかとすることを目的としています。また、株式会社魔法アプリが開発したVR曝露療法に関する体験会を実施し、その有効性をあわせて検証します。

実施スケジュール

- 2019年 9月： 大学において倫理委員会の必要性を確認
- 10月～11月： 体験会の実施方法・場所について相談
- 12月： 市川市職員に対してアンケートを実施
- 12月7日： 「Iあいフェスタ」において体験会を実施
- 2020年 1月～2月： アンケート結果の分析

実験結果

- 【調査】 1,320名の市の職員らに対し不安症に関連する認知・認識調査を実施しました。
(うち男性941名、女性374名、無回答5名)
- 【体験会】 2019年12月7日にニッケコルトンプラザで開催された「Iあいフェスタ」にて、
市川市自立支援協議会（市川の障がい福祉を検討する協議会）、
市内の社会福祉法人やNPO法人、障害者団体連絡会などの参加者に対して
VR曝露療法の一部を体験いただき感想をヒアリングしました。

本実証実験の成果と意義

質問紙調査結果から、日本人の不安症受診率は、不安症・認知行動療法・公的支援制度(自立支援医療・障害者保険福祉手帳)を理解することにより、現状の18.7%から32.82%に増加することが示されました。また、受診した患者全員が認知行動療法による治療を受けることによる医療費の削減額は約2,499億円になることが判明しました。

今後の展望

今後は「中学生・高校生に対する不安症教育プログラムの実施」「IAPTを参考にした自己診断で受診可能な県市区町村らによる支援環境構築」「認知行動療法の保険点数の加点」「認知行動療法を用いた診療が可能な医師・看護師・心理士・理学療法士等の国家資格を有するものの育成プログラム」の4点に重点的に取り組む必要があり、日本の不安症医療環境改善のため、今後も事業を継続するとともに、啓発にも取り組んでいきます。